

事 務 連 絡  
令和4年12月13日

各都道府県消防防災主管部(局) 御中

消防庁救急企画室

鳥インフルエンザ発生への対応について（お知らせ）

これまで、17道県の養鶏場等において高病原性鳥インフルエンザの疑似患者が確認され、都度情報提供をしてきたところです。令和4年度シーズンは、高病原性鳥インフルエンザが過去最大規模の発生を記録した令和2年度シーズンを上回って発生していることから、危機感と今後の対応の共有を図るため、このたび、別添のとおり「鳥インフルエンザ関係府省庁連絡会議（局長級）」が開催されましたので、情報提供いたします。

鳥インフルエンザウイルスについては、国外で感染した鶏やその死体等に濃厚に接触した場合に、人に感染した事例がまれに確認されているのみではありますが、貴都道府県内市町村（消防の事務を処理する一部事務組合を含む。）に対して情報の提供を行うとともに、感染予防の留意事項の周知等必要な対応について遺漏がないよう、よろしく願いいたします。

また、関係機関から消防機関に、協力依頼があった場合は、必要に応じて御協力いただきますようお願いいたします。

(連絡先)

消防庁救急企画室

TEL : 03-5253-7529 FAX : 03-5253-7532

担当：岡澤補佐、平山主査、篠原事務官、橋本事務官

## 【鳥インフルエンザ関係府省庁連絡会議】

- ・ 日程 令和4年12月13日（火） 17：00～17：45
- ・ 議題 令和4年度シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況について
- ・ 出席府省庁  
内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、国土交通省、環境省、防衛省、内閣官房

(鳥インフルエンザ事案)

総理指示

- 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- 現場の情報をしっかり収集すること。
- 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

令和4年度シーズンにおける  
高病原性鳥インフルエンザの発生状況について

農林水産省

令和4年12月

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況①

令和4年12月13日 9時00分現在

事例数：17道県、34事例（防疫措置対象：39農場 4施設 約472万羽）				農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）					
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		措置完了日(0日目)		10日目		21日目	
					防疫措置（殺処分、消毒等） 開始	完了	清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
①	岡山 1	養鶏場 (岡山県倉敷市)	令和4年 10月28日	約17万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	10月27日	10月28日 7時00分	11月3日 12時55分	11月18日 終了	11月18日 20時00分	11月25日 0時00分
②	北海道 1	養鶏場 (北海道厚真町)	令和4年 10月28日	約17万羽 (肉用鶏・平飼い)	10月28日	10月28日 10時30分	11月3日 8時00分	11月19日 終了	11月20日 0時00分	11月25日 0時00分
③	香川 1	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月1日	約4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	10月31日	11月1日 5時00分	11月4日 17時00分	11月19日 終了	11月20日 0時00分	
④	茨城 1	養鶏場 (茨城県かすみがうら市)	令和4年 11月4日	約104万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月3日	11月4日 7時00分	11月22日 18時00分	12月7日 終了	12月8日 0時00分	
⑤	岡山 2	養鶏場 (岡山県倉敷市)	令和4年 11月4日	約51万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月4日 (持ち回り)	11月4日 8時00分	11月18日 13時30分	12月3日 終了	12月3日 17時00分	12月10日 0時00分
⑥	北海道 2	養鶏場 (北海道伊達市)	令和4年 11月7日	約15万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月7日 (持ち回り)	11月7日 14時00分	11月13日 8時00分	11月29日 終了	11月30日 0時00分	12月5日 0時00分
⑦	岡山 3	養鶏場 (岡山県倉敷市)	令和4年 11月11日	約3.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月11日 (持ち回り)	11月11日 7時00分	11月18日 13時30分	12月3日 終了	12月3日 17時00分	12月10日 0時00分
⑧	和歌山 1	家きん飼養施設 (和歌山県白浜町)	令和4年 11月11日	約60羽 (あひる等)	11月11日 (持ち回り)	11月11日 9時20分	11月12日 5時00分	—	11月23日 0時00分	12月4日 0時00分
⑨	兵庫 1	養鶏場 (兵庫県たつの市)	令和4年 11月13日	約4.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月12日	11月13日 9時00分	11月15日 20時00分	—	11月26日 0時00分	12月7日 0時00分
⑩	鹿児島 1	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 11月18日	約12万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月17日	11月18日 4時00分	11月21日 8時00分			
⑪	新潟 1	養鶏場 (新潟県阿賀町)	令和4年 11月18日	約15万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月17日	11月18日 7時00分	11月24日 12時00分	12月10日 終了	12月11日 0時00分	
⑪' (関連)	新潟 1'	食鳥処理場 (新潟県新発田市)	—	約0.6万羽 (肉用鶏)		11月18日 7時00分	11月18日 22時00分	—	—	
⑫	宮崎 1	養鶏場 (宮崎県新富町)	令和4年 11月20日	約16万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月19日 (持ち回り)	11月20日 4時00分	11月22日 18時00分	12月7日 終了	12月7日 14時00分	
⑬	青森 1	養鶏場 (青森県横浜町)	令和4年 11月20日	約12.2万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月20日 (持ち回り)	11月20日 15時00分	11月24日 11時30分	12月9日 終了	12月9日 18時00分	
⑬' (関連)	青森 1'	食鳥処理場 (青森県横浜町)	—	約0.8万羽 (肉用鶏)		11月20日 15時00分	11月21日 16時30分	—	—	

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況②

令和4年12月13日 9時00分現在

事例数：17道県、34事例（防疫措置対象：39農場 4施設 約472万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）				
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3			措置完了日(0日目)		10日目		
						開始	完了	清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
⑭	香川 2	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月22日	約2.4万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月22日 (持ち回り)	11月22日 5時00分	11月26日 18時15分	12月11日 終了	12月12日 0時00分	
⑭' (関連)	香川 2'	養鶏場 (香川県観音寺市)	—	約0.9万羽 (肉用鶏)		11月22日 5時00分	11月26日 18時15分	—	—	
⑮	香川 3	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月23日	約1.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月23日 (持ち回り)	11月23日 5時00分	11月26日 18時15分	12月11日 終了	12月12日 0時00分	
⑮' (関連)	香川 3'	養鶏場 (香川県観音寺市)	—	約0.8万羽 (採卵鶏)		11月23日 5時00分	11月26日 18時15分	—	—	
⑮' (関連)	香川 3'	養鶏場 (香川県観音寺市)	—	約1.2万羽 (採卵鶏)		11月23日 5時00分	11月26日 18時15分	—	—	
⑯	宮城 1	養鶏場 (宮城県気仙沼市)	令和4年 11月23日	約2.1万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月23日 (持ち回り)	11月23日 11時00分	11月24日 20時45分	—	12月5日 0時00分	
⑰	鹿児島 2	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 11月24日	約7万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月24日 (持ち回り)	11月24日 14時00分	11月27日 9時00分			
⑰' (関連)	鹿児島 2'	養鶏場 (鹿児島県出水市)	—	約0.8万羽 (採卵鶏)		11月24日 14時00分	11月27日 9時00分			
⑱	千葉 1	家さん飼養施設 (千葉県香取市)	令和4年 11月26日	約20羽 (あひる(あいがも))	11月26日 (持ち回り)	11月26日 6時00分	11月26日 8時24分	—	12月7日 0時00分	
⑲	鹿児島 3	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 11月27日	約47万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月27日 (持ち回り)	11月27日 6時00分	12月8日 16時00分			
⑳	福島 1	養鶏場 (福島県伊達市)	令和4年 11月29日	約1.7万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月28日	11月29日 6時00分	11月30日 21時50分			
㉑	和歌山 2	養鶏場 (和歌山県和歌山市)	令和4年 11月30日	約4.6万羽 (採卵鶏・平飼い)	11月30日 (持ち回り)	11月30日 7時00分	12月4日 18時30分			
㉒	鳥取 1	養鶏場 (鳥取県鳥取市)	令和4年 12月1日	約11万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月30日	12月1日 5時00分	12月5日 17時00分			
㉓	鹿児島 4	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月2日	約12万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月2日 (持ち回り)	12月2日 6時00分	12月5日 4時00分			
㉔	鹿児島 5	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月4日	約3.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月4日 (持ち回り)	12月4日 9時00分	12月6日 19時00分			
㉕	愛知 1	養鶏場 (愛知県豊橋市)	令和4年 12月5日	約31万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月4日	12月5日 7時30分				

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況③

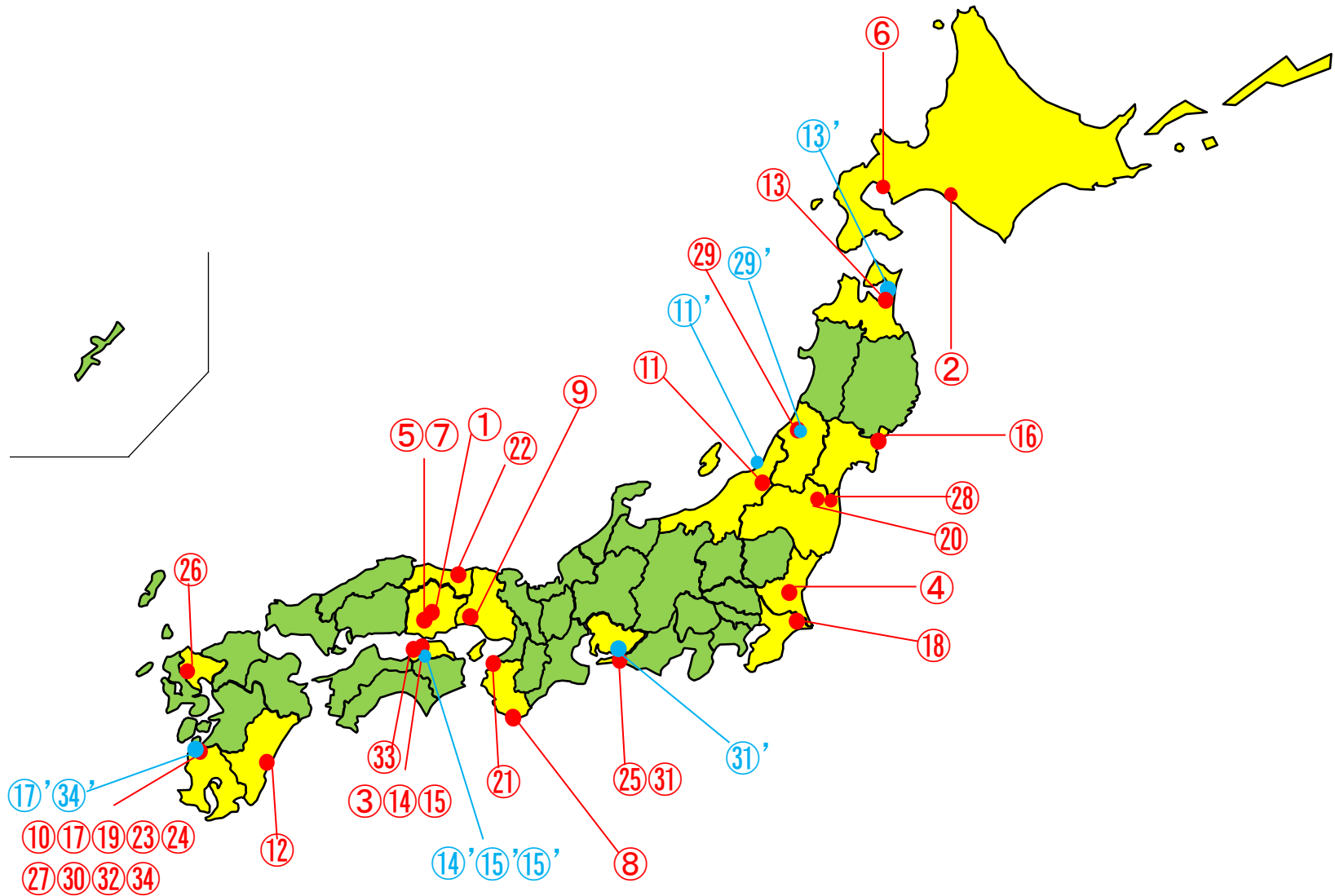
令和4年12月13日 9時00分現在

事例数：17道県、34事例（防疫措置対象：39農場 4施設 約472万羽）				農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）				
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		措置完了日(0日目)		清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
					防疫措置（殺処分、消毒等） 開始	完了			
②⑥	佐賀 1	養鶏場 (佐賀県武雄市)	令和4年 12月6日	約3万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月5日	12月6日 5時00分	12月7日 22時26分		
②⑦	鹿児島 6	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月7日	約6万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月7日 (持ち回り)	12月7日 8時00分			
②⑧	福島 2	養鶏場 (福島県飯舘村)	令和4年 12月7日	約10万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月7日 (持ち回り)	12月7日 16時00分	12月11日 20時00分		
②⑨	山形 1	養鶏場 (山形県鶴岡市)	令和4年 12月8日	約2.7万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月7日	12月8日 8時00分	12月12日 19時40分		
②⑨' (関連)	山形 1'	養鶏場 (山形県庄内町)	—	約4万羽 (採卵鶏)	—	12月8日 8時00分	12月12日 19時40分		
③⑩	鹿児島 7	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月8日	約6.3万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月7日	12月7日 9時00分			
③⑪	愛知 2	家きん農場 (愛知県豊橋市)	令和4年 12月8日	約1000羽 (あひる(あいがも))	12月8日 (持ち回り)	12月7日 7時30分	12月9日 11時10分		
③⑪' (関連)	愛知 2'	家きん農場 (愛知県豊橋市)	—	約1000羽 (あひる(あいがも))	—	12月7日 7時30分	12月9日 11時10分		
③⑫	鹿児島 8	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月9日	約22万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月9日 (持ち回り)	12月9日 12時30分			
③⑬	香川 4	養鶏場 (香川県三豊市)	令和4年 12月11日	約8万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月11日 (持ち回り)	12月11日 7時00分			
③⑭	鹿児島 9	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月11日	約2.2万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月11日 (持ち回り)	12月11日 12時00分			
③⑭' (関連)	鹿児島 9'	養鶏場 (鹿児島県出水市)	令和4年 12月11日	約7.4万羽 (採卵鶏)	12月11日 (持ち回り)	12月11日 12時00分			

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況④





# 総理指示(10月28日)を受けた対応について

## <総理指示> (10月28日)

- ① 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- ② 現場の情報をしっかり収集すること。
- ③ 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- ④ 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

## <対応>

- ① 全都道府県に対し、鳥インフルエンザの早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を改めて通知し、家きん農場における監視体制の強化を実施。併せて、経営支援対策を周知。
- ② 農林水産省政務による都道府県知事との意見交換を実施するとともに、疫学、野鳥等の専門家からなる疫学調査チームを派遣。
- ③ 関係省庁(※)と連携し、都道府県が実施する防疫措置(当該農場の飼養家きんの殺処分及び焼埋却、移動制限区域・搬出制限区域の設定、消毒ポイントの設置等)について、職員の派遣等、必要に応じた支援を実施。(また、環境省において発生農場周辺半径10kmを「野鳥監視重点区域」に指定し、県に野鳥の監視を強化するよう要請。)
- ④ 消費者、流通業者、製造業者等に対し、鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等(鶏肉・鶏卵の安全性の周知、発生県産の鶏肉・鶏卵の適切な取扱いの呼び掛け等)を実施。

(※) 関係各省：消費者庁、警察庁、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省及び防衛省

# 過去の発生事例～近年の高病原性鳥インフルエンザの発生とその対応

## ＜平成15年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～3月…3府県4事例 約27万羽（山口県、大分県、京都府）  
 （※我が国で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生）

## ＜平成18年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～2月…2県4事例 約16万羽（宮崎県、岡山県）

## ＜平成22年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

11～3月…9県24事例 約183万羽（島根県、宮崎県、鹿児島県、愛知県、大分県、三重県、奈良県、和歌山県、千葉県）

## ＜平成26年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

4月…1県1事例 約10万羽（熊本県）  
 12～1月…4県5事例 約35万羽（宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県）

## ＜平成28年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

11～3月…9道県12事例 約166万羽（青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県）

## ＜平成29年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

平成30年1月…1県1事例 約9.1万羽（香川県）

## ＜令和2年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

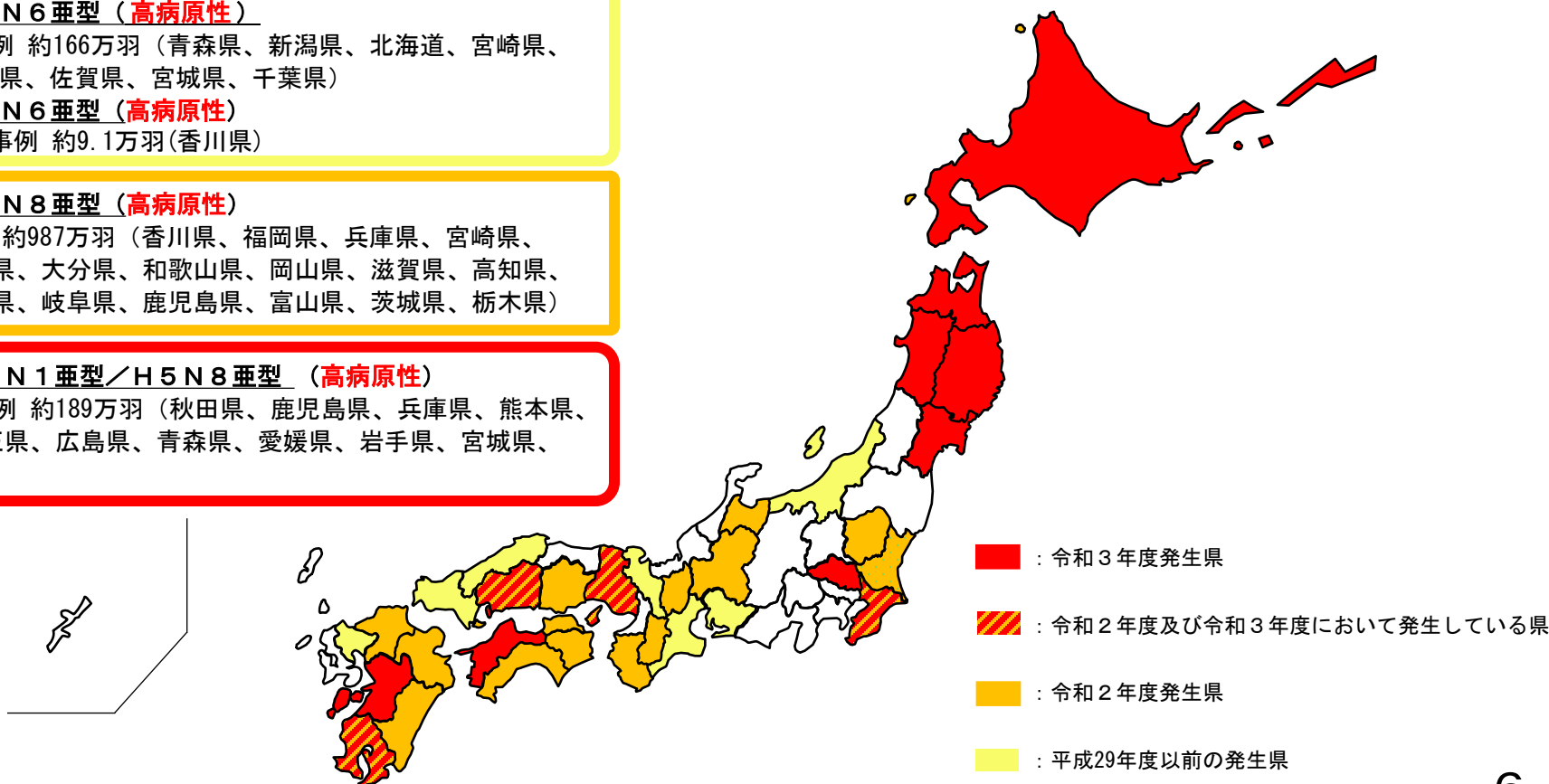
11～3月…18県52事例 約987万羽（香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県）

## ＜令和3年度の発生＞ H5N1亜型／H5N8亜型（高病原性）

11～5月…12道県25事例 約189万羽（秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道）

## ※野鳥における発生（高病原性）

- ・平成20年 全3県
- ・平成22～23年 全16県  
 （他3県における動物園等の飼育鳥からウイルスを確認）
- ・平成26～27年 全6県12例（H5N8型）
- ・平成28～29年 全22都道府県 218例（H5N6型）
- ・平成29～30年 全3都県45例（H5N6型）
- ・令和2～3年 全18道県58例（H5N8型）
- ・令和3～4年 全8道府県107例（H5N1型/ H5N8型）



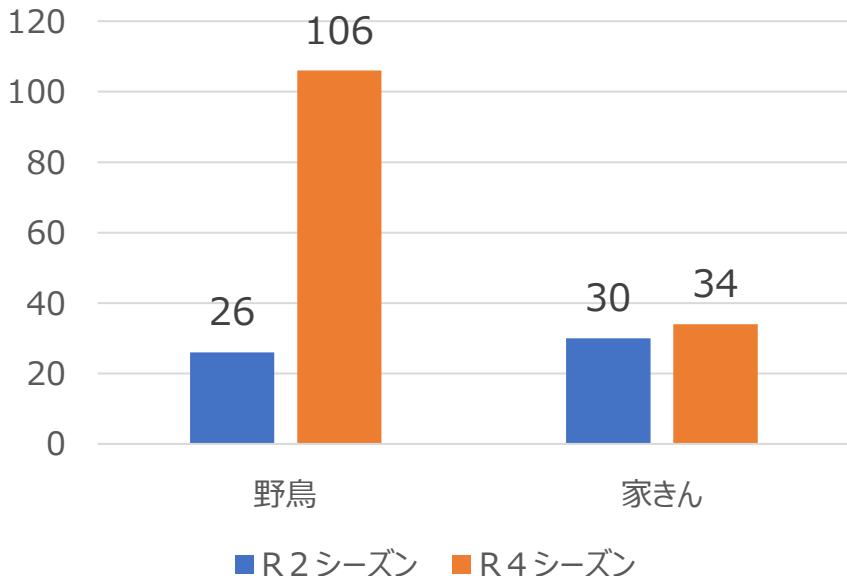
# 今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの特徴

- 野鳥での感染がこれまでで最も早く（9月25日）確認。専門家は、全国的に環境中のウイルス濃度が高まっていると考えられると指摘。
- 家きんの発生もこれまでで最も早い（10月28日）。発生のペースや殺処分数については令和2年度シーズンを上回って推移。他方、防疫措置は順調に進捗しており、令和2年シーズンで起きた密集多発・大規模農場での発生による防疫措置の遅れは生じていない。

## (1) 初発確認日

	R2年	R4年
野鳥	10月24日	9月25日
家きん	11月5日	10月28日

## (2) 発生事例数（初発日から45日後の間）



※殺処分羽数 R2 : 335万羽、R4 : 472万羽

## (3) R4年における防疫措置の進捗状況

※1 疑似患者と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患者確認時の羽数

発生場所	発生日※1	飼養羽数※2	防疫措置に要した時間
① 岡山 1	10月28日	採卵鶏・約17万羽	約6日
② 北海道 1	10月28日	肉用鶏・約17万羽	約6日
③ 香川 1	11月1日	採卵鶏・約4万羽	約3.5日
④ 茨城 1	11月4日	採卵鶏・約104万羽	約18.5日
⑤ 岡山 2	11月4日	採卵鶏・約51万羽	約14日
⑥ 北海道 2	11月7日	肉用鶏・約15万羽	約6日
⑦ 岡山 3	11月11日	採卵鶏・約3.4万羽	約7日
⑧ 和歌山 1	11月11日	あひる等・約60羽	1日未満
⑨ 兵庫 1	11月13日	採卵鶏・約4.4万羽	約2.5日
⑩ 鹿児島 1	11月18日	採卵鶏・約12万羽	約3日
⑪ 新潟 1	11月18日	肉用鶏・約15万羽	約6日
⑫ 宮崎 1	11月20日	採卵鶏・約16万羽	約2.5日
⑬ 青森 1	11月20日	肉用鶏・約12.2万羽	約4日
⑭ 香川 2	11月22日	肉用鶏・約2.4万羽	約4.5日
⑮ 香川 3	11月23日	採卵鶏・約1.4万羽	約3.5日
⑯ 宮城 1	11月23日	肉用鶏・約2.1万羽	約1.5日
⑰ 鹿児島 2	11月24日	採卵鶏・約7万羽	約3日
⑱ 千葉 1	11月26日	あひる・20羽	1日未満
⑲ 鹿児島 3	11月27日	採卵鶏・約47万羽	約5.5日
⑳ 福島 1	11月29日	肉用鶏・約1.7万羽	約2日
㉑ 和歌山 2	11月30日	採卵鶏・約4.6万羽	約5日
㉒ 鳥取 1	12月1日	採卵鶏・約11万羽	約5日
㉓ 鹿児島 4	12月2日	採卵鶏・約12万羽	約3日
㉔ 鹿児島 5	12月4日	採卵鶏・約3.4万羽	約2.5日
㉕ 愛知 1	12月5日	採卵鶏・約31万羽	殺処分終了
㉖ 佐賀 1	12月6日	採卵鶏・約3万羽	約1.5日
㉗ 鹿児島 6	12月7日	採卵鶏・約6万羽	殺処分終了
㉘ 福島 2	12月7日	採卵鶏・約10万羽	約4日
㉙ 山形 1	12月8日	採卵鶏・約2.7万羽	約4.5日
㉚ 鹿児島 7	12月8日	採卵鶏・約6.3万羽	殺処分終了
㉛ 愛知 2	12月8日	あひる・約0.1万羽	約2日
㉜ 鹿児島 8	12月9日	採卵鶏・約22万羽	殺処分終了
㉝ 香川 4	12月11日	採卵鶏・約8万羽	実施中
㉞ 鹿児島 9	12月11日	採卵鶏・約2.2万羽	実施中 ※発生農場は殺処分終了

# 家きん疾病小委員会からの緊急提言(11月28日)

- 今シーズンの疫学調査チームの現地調査結果等を踏まえるとともに、高病原性鳥インフルエンザが数多く発生していることを受け、11月28日、食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会家きん疾病小委員会を開催し、専門家から、**続発を踏まえた緊急提言として、全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっており、①農場敷地内や鶏舎周囲の消毒の徹底、長靴の消毒・交換、野生動物の侵入防止**などの農場での対策に加え、**②ため池周辺等の消毒、ため池の水抜き**などの発生地域での対策が必要との見解が示された。
- 同日、都道府県や関係者に対して、動物衛生課長通知を发出。

## 【家きん疾病小委員会からの今後の防疫対応に関する緊急提言】

### 1. 農場での対策

- ① 鶏舎に出入りする従業員等に、消毒、長靴交換等の重要性を説明し、**適切に消毒や長靴の交換ができているか再度確認**すること。
- ② **農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を毎日行う**こと。また、消毒はため池等の水場を意識し、その近くはリスクが高いことから、徹底して消毒を行うこと。
- ③ **猫やイタチ等の小動物や野鳥等が農場内に近づかないような対策**を講じること。
- ④ 開放鶏舎のみならずウインドレス鶏舎のように一見隙間がないように思われる鶏舎であっても、**飼養衛生管理者と鶏舎構造を熟知している者等が連携してねずみや猫をはじめとした野生動物等が侵入しそうなルートを探し侵入防止対策**を講じること。
- ⑤ 鶏舎の出入りの際に本病ウイルスを鶏舎内に持ち込むことのないよう**衛生管理区域に入る際の適切なタイミングでの専用衣服の着用、鶏舎ごとの専用長靴の設置、手指消毒及び長靴の消毒・交換等の適正な衛生管理**が日常的になされているか再度確認すること。
- ⑥ **消毒を行う際は、長靴等の汚れを落としてから行う**とともに、**消毒薬は汚れた都度、最低でも1日1回以上交換し、消毒薬が有効な状態での使用を徹底**すること。
- ⑦ 長靴の交換の際は、交差汚染を防ぐため**鶏舎外と鶏舎内で使用する長靴の動線が交わらないように注意**すること。

### 2. 発生地域での対策

- ① 発生農場を中心に半径3kmの区域に設定された**移動制限区域内では、感染拡大リスクが増大**していることを念頭に行動すること。
- ② 発生農場周囲の主要道路やため池周辺等の消毒、ため池の水抜き等の野鳥対策等について**地域の関係者が一体となった取組**を徹底して行うこと。
- ③ 続発を防ぐために、国、都道府県、市町村、関係団体及び養鶏業者だけでなく、**関連事業者、地域住民が一体となってまん延防止対策を徹底**すること。

## <生産者をはじめとした畜産に携わる関係者及び都道府県等の行政関係者の皆様に対して>

発生に際しては、都道府県をはじめとする関係者の御尽力により、これまでのところ防疫措置に遅れなどは生じておりませんが、**まずは発生させないことが重要**であり、発生予防のための取組を、例年以上に強化する必要があります。飼養衛生管理の徹底については、特に都道府県の指導や生産者による自己点検などを通じて、日々対策いただいているところですが、今シーズンの発生農場における**疫学調査では、農場や鶏舎に入るときの長靴の交換といった、基本的な衛生管理が守られず、長靴の交換の実効性が確保されていないような事例も多くありました。**

こうした状況を踏まえ、関係者の皆様には、発生予防のため、基本ともいえる事項、例えば①敷地内や鶏舎の周りの消毒の実施、②農場に入る場合の専用衣服と長靴への交換、鶏舎に入る場合の専用長靴への交換とともに、交換の前後で使用する長靴等が交わらないようにすること、③手指の消毒の上、長靴を消毒するときは汚れをしっかりと落としてから実施することなどをおこたらないよう行動の徹底をお願いします。農場にいる**飼養衛生管理者はもちろんのこと、すべての従業員の皆様や畜産に携わる方一人一人が、自分たちの農場、自分たちの地域は自分たちで守るという心構え**をもって取り組んでいただきますようお願いいたします。

また、万が一発生した場合には、発生農場のみならず、例えば、発生農場周囲の主要道路やため池周辺等の消毒、ため池の水抜き等の野鳥対策など、**周辺地域を含めた地域一体となったまん延防止対策の徹底が重要**です。

今シーズンは、過去に一度も発生がなかった地域でも発生しており、今後も**全国どこでも発生する可能性があります**。これまで発生したことがないからと言って、決して油断しないでください。ウイルスは目に見えませんが、野鳥でも広く感染しており、環境中のウイルス濃度も非常に高くなっているため、**鶏舎の周りは常にあらゆる場所が汚染されているという危機意識**をもって、対策に取り組んでください。

## <消費者の皆様や食品の流通・製造事業者の皆様に対して>

内閣府食品安全委員会も、「我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考える」としています。**引き続き、国産の鶏肉や卵を安心して食べていただければと思います。**

## <水際対策について>

新型コロナウイルスにかかる入国制限も緩和され、今後、年末年始や春節を迎えると、海外からの訪日客のみならず、国内においても人の移動が活発化することになります。アフリカ豚熱の発生が東アジアで拡大する中で、これまでも、**コロナ禍以前の訪日外国人数にも対応できるよう、家畜防疫官の増員や検疫探知犬の増頭などの水際対策を強化**してきましたが、引き続き、関係機関等とも連携し、水際対策に万全を期してまいります。

(参考資料)

# (参考) 韓国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年10月以降)

出典：韓国農林畜産食品部

※日付は症状が確認された日または検体採取日

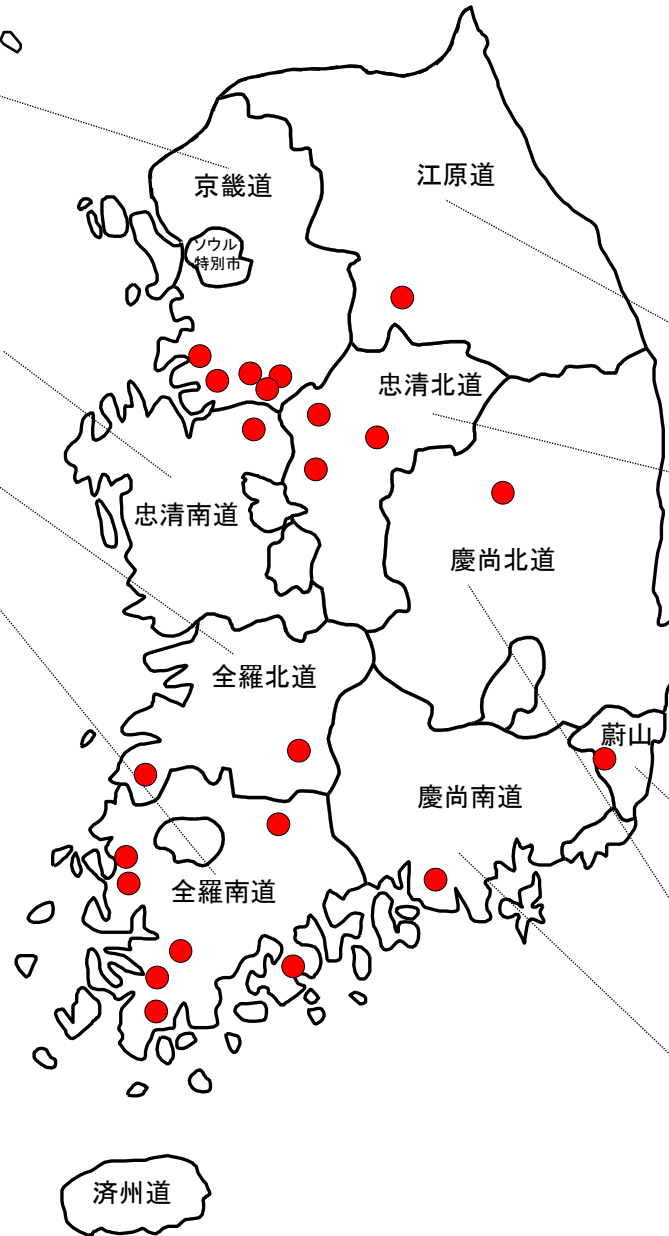
※ \* は病原性検査中事例

京畿道				
2022.11.15	龍仁市	肉用種鶏	約4.2万羽	H5N1
2022.11.16	華城市	肉用種鶏	約2.4万羽	H5N1
2022.11.17	平沢市	採卵鶏	約0.6万羽	H5N1
2022.11.23	平沢市	採卵鶏	約3.5万羽	H5N1
2022.11.26	利川市	採卵鶏	約17万羽	H5N1
2022.11.29	安城市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1

忠清南道				
2022.11.9	天安市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.11.26	洪城市	観賞用鳥類	124羽	H5N1

全羅北道				
2022.11.5	淳昌郡	採卵鶏	約15.5万羽	H5N1
2022.12.2	高敞郡	肉用アヒル	約0.9万羽	H5N1

全羅南道				
2022.11.15	長興郡	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1
2022.11.22	羅州市	肉用アヒル	約7.9万羽	H5N1
2022.11.26	高興郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	採卵鶏	約5.5万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	肉用アヒル	約4.5万羽	H5N1
2022.12.1	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.2	羅州市	肉用アヒル	約2.0万羽	H5N1
2022.12.3	務安郡	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.12.3	咸平郡	採卵鶏	約40万羽	H5N1
2022.12.4	咸平郡	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2022.12.5	羅州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.8	務安郡	種アヒル	約0.6万羽	H5N1
2022.12.8	谷城郡	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.12.8	靈岩郡	採卵鶏	約9.1万羽	H5N1
2022.12.9	務安郡	種アヒル	約0.9万羽	H5N1
2022.12.10	靈岩郡	肉用鶏	約12万羽	H5N1
2022.12.11	務安郡	肉用アヒル	約1.5万羽	H5N1
2022.12.11	靈岩郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2022.12.11	靈岩郡	採卵鶏	約3.9万羽	H5N1
2022.12.12	咸平郡	採卵鶏	約5.4万羽	H5*



月	事例数	殺処分羽数
10月	3	約6万
11月	24	約142万
12月	15	約87万
<b>計</b>	<b>42</b>	<b>約235万</b>

※農林水産省にて発生報告ごとに累計  
 ※予防的殺処分等は含まず  
 ※事例数等は病原性が確定した事例のみ記載

江原道				
2022.11.14	原州市	採卵鶏	約6.7万羽	H5N1

忠清北道				
2022.10.26	鎮川郡	肉用アヒル	約1.8万羽	H5N1
2022.11.3	清州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用鶏	約5.6万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.11.8	清州市	ウズラ	約49.8万羽	H5N1
2022.11.9	清州市	肉用アヒル	約2.2万羽	H5N1
2022.11.10	清州市	種アヒル	約0.4万羽	H5N1
2022.11.12	忠州市	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.11.17	清州市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1

蔚山広域市				
2022.11.28	蔚州郡	採卵鶏	約6.5万羽	H5N1

慶尚北道				
2022.10.17	醴泉郡	種アヒル	約1.0万羽	H5N1
2022.10.21	醴泉郡	肉用種鶏	約3.2万羽	H5N1

慶尚南道				
2022.12.12	晋州市	肉用アヒル	約1.6万羽	H5*

●：発生地点

2022年12月13日現在

# (参考)世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)①

## ヨーロッパ

			スウェーデン	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.5.25] 2022.2.23 [2022.10.5]	フィンランド	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.8.16] 2021.2.8 [2021.11.9]
アイスランド	H5N1 (高)	2022.4.15 [2022.9.22]		H5N5 (高)	2021.3.2 [2021.5.25]	フェロー諸島	H5N1 (高)	2022.10.14 [2022.6.18]
アイルランド	H5N1 (高)	2021.12.17 [2022.10.17]		H5N8 (高)	2021.4.19 [2021.10.13]	フランス	H5N1 (高)	2022.10.20 [2022.10.19]
	H5N3 (高) H5N8 (高)	[2021.1.8] [2021.1.29]	スバルバル諸島	H5N5 (高) H5N1 (高)	[2022.6] 2022.9.17 [2022.10.21]		H5N8 (高)	2021.4.26 [2021.9.11]
アルバニア	H5N1 (高)	[2022.3.18]	スペイン	H5N8 (高) H5N1 (高)	2021.1.26 2022.5.24 [2022.2.7]		H7N7 (高) H5N3 (低)	[2021.9.14] 2021.3.9 2022.6.9
イタリア	H5N8 (高) H5N1 (高)	2022.3.23 2022.10.21 [2022.10.12]	スロバキア	H5N8 (高) H5N1 (高)	2021.1.22 [2021.1.15]	ブルガリア	H5 (高) 不明 (高)	2022.10.21 [2022.4.8]
	H5N8 (高)	2021.2.19 [2021.2.1]		H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	2021.12.26 [2022.10.19]	ベルギー	H5 (高) H5N1 (高)	[2022.7.8] 2022.10.21 [2022.10.19]
ウクライナ	H7N7 (低) H5 (高)	2021.1.29 2021.12.12 [2021.4.2]	スロベニア	H5N1 (高) H5N2 (高) H5N8 (高)	[2021.11.13] [2021.9.26]		H5N5 (高) H5N8 (高)	2021.1.26 [2021.8.31]
英国	H5N8 (高) H5N1 (高)	2021.2.16 2022.10.20 [2022.10.20]	セルビア	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.10.8] 2021.9.27 2022.4.13 [2022.1.29]	ポーランド	H5N1 (高)	2022.9.20 [2022.7.14]
	H5N3 (高) H5N8 (高)	[2021.1.14] 2021.3.21 [2021.11.7]	チェコ	H5N5 (高) H5N8 (高)	[2021.2.24] 2021.5.17 [2021.4.19]		H5N2 (高) H5N5 (高) H5N8 (高)	2022.2.28 [2021.1.31] 2021.8.9 [2021.6.17]
エストニア	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.3.18] 2021.10.21 [2021.9.27]	デンマーク	H5 (高) H5N1 (高)	2021.10.30 2022.3.28 [2022.10.25]	ポルトガル	H5N1 (高)	2022.9.28 [2022.9.16]
オーストリア	H5N1 (高)	2022.1.20 [2022.4.8]		H5N3 (高) H5N5 (高) H5N8 (高)	[2021.4.29] [2021.3.19] 2022.1.6 [2022.1.3]	ボスニア・ヘル ツェゴビナ	H5N1 (高)	[2021.11.1]
オランダ	H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2021.2.25] [2021.4.27] 2022.10.15 [2022.10.7]	ドイツ	H5N1 (高)	2022.10.16 [2022.9.30]	モルドバ	H5N1 (高) 不明 (高)	2022.8.6 2022.5.13 [2022.4.4]
	H5N3 (高) H5N4 (高) H5N8 (高)	[2021.1.4] [2021.3.4] 2021.5.21 [2021.12.1]		H5N3 (高) H5N4 (高) H5N5 (高)	[2021.12.22] [2021.4.16] 2021.3.4 [2021.3.10]	モンテネグロ ラトビア	H5N1 (高) H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.4.4] [2022.1.17] [2021.3.16]
北マケドニア	H5N1 (高)	[2022.2.17]		H5N8 (高)	2021.6.23 [2021.7.1]	リトアニア	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.6.23] 2021.6.2 [2022.6.23]
ギリシャ	H5N1 (高) H5N8 (高)	2022.4.18 [2021.3.30]	ノルウェー	H5 (高) H5N1 (高)	2021.11.16 2022.10.20 [2022.8.10]	リユニオン	H5N1 (高) H7N7 (高)	[2022.10.12] 2021.3.26
クロアチア	H5N1 (高)	2022.5.25 [2022.2.9]		H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2022.7.7] [2021.7.29] 2022.6.7 [2022.5.30]	ルクセンブルク	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.2.4] [2021.9.3]
スイス	H5N8 (高) H5N1 (高)	[2021.3.14] 2021.11.23 [2022.3.7]	ハンガリー	H5N5 (高) H5N8 (高)	2021.2.1 [2021.3.2]	ルーマニア	H5N1 (高)	2022.3.26 [2022.3.17]
	H5N4 (高)	[2021.2.4]		H5N5 (高) H5N8 (高)	2021.2.1 [2021.3.2]		H5N5 (高) H5N8 (高)	[2021.2.19] 2021.5.13 [2021.1.13]

※日付は発生日又は検体回収日に基づく

※[ ]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す

※本図は発生の有無を示したもので、

その後の清浄性確認については記載していない

※型別に最新の発生事例を記載

2022年11月1日現在

出典:OIE等



# (参考)世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)②

## 南北アメリカ

米国	H5 (高)	[2021.12.30]
	H5N1 (高)	2022.10.19 [2022.10.6]
カナダ	H5N3 (低)	2022.1.5
	H5N1 (高)	2022.10.14 [2022.10.14]
メキシコ	H7N3 (高)	2022.4.21
	H5N1 (高)	[2022.10.11]
コロンビア	H5N1 (高)	[2022.10.5]

## アジア

中国	H5N1 (高)	[2022.7.9]
	H5N6 (高)	[2021.4.8]
	H5N8 (高)	[2021.6.11]
韓国	H5 (高)	[2021.12.1]
	H5N1 (高)	2022.10.26 [2022.3.24]
	H5N8 (高)	2021.4.6 [2022.1.24]
台湾	H5N2 (低)	[2021.11.23]
	H5N3 (低)	[2021.12.9]
	H5N8 (低)	[2021.11.1]
	H7N7 (低)	[2021.12.16]
	H7N9 (低)	[2021.11.2]
	H5N1 (高)	[2022.5.24]
香港	H5N1 (高)	2022.7.12 [2022.2.23]
	H5N5 (高)	2021.12.16 [2021.1.11]
	H5N1 (高)	[2022.1.21]
インド	H5N8 (高)	[2021.1.28]
	H5N1 (高)	2022.3.30 [2021.11.18]
イラン	H5N8 (高)	2021.3.15 [2021.11.28]
	H5N5 (高)	2021.12.11
	H5N8 (高)	2021.6.9 [2021.11.28]
イスラエル	H5N1 (高)	2022.1.9 [2022.1.27]
	H5N8 (高)	[2022.5.6]
ネパール	H5N1 (高)	2022.6.3 [2022.2.22]
	H5N8 (高)	2021.5.22
フィリピン	H5N1 (高)	2022.7.25
	H5N8 (高)	2022.2.28
	H5N1 (高)	2022.10.14
ベトナム	H5N6 (高)	2021.8.26
	H5N8 (高)	2021.12.22
	H5 (高)	2021.8.29
ラオス	H5 (高)	2021.8.29
カンボジア	H5N1 (高)	2021.1.5

## 中東

イラク	H5N8(高)	2022.6.6
クウェート	H5N8(高)	2021.3.19
アフガニスタン	H5N8(高)	2021.2.7
パキスタン	H5(高)	2021.11.25
	H5N8(高)	2021.8.5

## ロシア・NIS諸国

ロシア	H5 (高)	2021.12.1 [2022.3.15]
	H5N1 (高)	2022.8.12 [2022.10.10]
カザフスタン	H5N5 (高)	[2021.3.30]
	H5N8 (高)	2021.1.27 [2021.1.5]
カザフスタン	H5 (高)	2021.9.28 [2022.6.19]

## アフリカ

南アフリカ共和国	H5 (高)	2021.5.13
	H5N1 (高)	2022.10.4
	H5 (低)	[2022.5.23] 2021.7.14 [2021.7.5]
セネガル	H5N2 (低)	2021.3.25
	H7 (低)	2021.2.4
ナイジェリア	H5N1 (高)	[2022.1.25]
モーリタニア	H5N1 (高)	2022.4.26
アルジェリア	H5N1 (高)	2021.1.27
	H5N8 (高)	2021.1.17 [2021.2.22]
ニジェール	H5N1 (高)	2022.1.12
マリ	H5N1 (高)	2022.3.3
	H5 (高)	2021.5.28
トーゴ	H5N1 (高)	2022.1.1
ガーナ	H5 (高)	2021.6.26
コートジボワール	H5N1 (高)	2021.11.21
	H5 (高)	2021.7.27
ベナン	H5N1 (高)	2021.10.5
ボツワナ	H5N1 (高)	2021.7.24
カメルーン	H5N1 (高)	2022.1.29
ナミビア	H5N1 (高)	[2022.2.2]
ブルキナファソ	H5N1 (高)	2021.12.15
ギニア	H5N1 (高)	2022.5.10

※日付は発生日又は検体回収日に基づく  
 ※[ ]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す  
 ※本図は発生の有無を示したもので、  
 その後の清浄性確認については記載していない  
 ※型別に最新の発生事例を記載

2022年11月1日現在

出典:OIE等

# アフリカ豚熱の発生状況

- 2018年8月に中国においてアジア初の発生。その後、アジア17か国・地域まで感染が拡大。特に、韓国では2019年9月の発生確認以来、飼養豚、野生イノシシで、徐々に感染が拡大。（直近では11月に発生）
- 東アジアでアフリカ豚熱が発生していないのは、**日本、台湾のみ**。
- 既に、我が国に違法に持ち込まれた畜産物4件からアフリカ豚熱ウイルスが分離されており、国際郵便物を含めた水際対策の強化により、事前に侵入を防止することが極めて重要。
- 万が一、野生イノシシに侵入を許した場合、豚熱と異なりワクチンがないことから、農場の飼養豚については、飼養衛生管理の向上が必要であるとともに、野生イノシシについて、死体を衛生的に処理する必要。



= 2005年以降OIE等に発生通報のあった国/地域

(参考) アジアにおける新規発生国数の推移

2018	2019	2020	2021	2022
1	11	1	3	1

## [参考] 違反の実例



中国からの旅客に持ち込まれた違法豚ソーセージ  
(感染性のあるアフリカ豚熱ウイルスを検出した事例あり)

## (参考) 豚熱、アフリカ豚熱の病原性に関する比較

	伝播性	致死率
豚熱	++	+
アフリカ豚熱	+	++

伝播性：感染しやすさ（ウイルスに接触した豚のうち感染する個体の割合）  
致死率：感染し、発症した豚のうち、死亡した個体の割合

出典：FLI（ドイツ連邦動物衛生研究所）作成資料

# アフリカ豚熱 (ASF) 対策の強化

## 1 相手国から持ってこさせない

- SNS、現地メディアを通じた注意喚起
  - 中国、韓国、ベトナム等の在外公館HP、Facebook、Twitter、Weiboで情報発信
  - 家伝法違反の逮捕事例をマルチメディアニュースリリース（中国・ベトナム）
- 多言語動画の配信（日本語、英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、韓国語）
  - 動物検疫に関する動画をYouTubeで配信
- 航空会社等への情報提供、協力依頼
  - 日本向け直行便での機内アナウンス実施を依頼
  - 一部の航空会社においては、現地の空港カウンターでポスターを掲示
  - 国際宅配会社に協力依頼し、各社HPに持込禁止案内を掲載
  - JNTOが実施する旅行代理店向けのニュースレターやセミナーにおいて動植物検疫について周知、協力依頼
- 広報ポスターの掲示
  - 全国の空港や港などに多言語ポスター1,000枚以上を掲示
  - 全国20以上の空海港にて、デジタルサイネージを用いた動画等による広報活動実施
- 広報キャンペーン、報道機関を通じた注意喚起
  - 長期休暇前や入国規制緩和等、時期に応じて空港等における広報キャンペーンを実施
  - 日本養豚協会（JPPA）と連携したキャンペーンを実施
- 外国人技能実習生への周知
  - 関係機関を通じて技能実習生へ動物検疫制度を周知
  - 植物防疫所と合同で、外国人技能実習生に対する監理団体の講習会において講義を実施



中国大使館のSNS (Weibo)



中国の空港カウンター (ポスターによる案内)



広報ポスター

## 2 日本に入れさせない

### ➤ 検疫探知犬の増頭（140頭体制に強化）

- ・税関検査場内におけるトレーニングと共に、国際線が再開していない空港に配備されている探知犬については定期的に便の到着のある空港に連れてきて探知活動を実施。

### ➤ 畜産物の違法な持込みに対する対応の厳格化（2019年4月22日～）

- ・個人消費用やお土産用であっても、警察への通報又は告発の対象として警告書を交付
- ・違反者情報をデータベース化し、関係省庁とも連携して対応（6件9名を逮捕）

### ➤ 高リスク便に対する携帯品検査の重点実施

- ・リスク国に対して検疫探知犬による探知や家畜防疫官による口頭質問を100%実施

### ➤ ASF発生国からの豚由来畜産物の汚染状況調査

- ・2022年12月13日現在、携帯品畜産物（生に近くリスクの高い物）106件からASFウイルス遺伝子を検出（うち4件（中国・フィリピン）からASFウイルスを分離）

### ➤ 国際郵便物の検査を強化

- ・検疫探知犬の活用を拡大、土日を含め検査時間を拡大
- ・家畜防疫官への廃棄権限付与により検査を効率化
- ・悪質者に対し厳格に対応（1件3名を逮捕）

### ➤ 各空海港における靴底消毒及び車両消毒の徹底

### ➤ 船舶・航空機の食品残渣の適切な処理について確認・指導を実施



検疫探知犬による  
探知活動

## 3 農場に入れさせない

### ➤ 野生イノシシ対策を見据えたごみ対策の協力依頼

- ・環境省及び国交省を通じて、公園でのごみ対策の協力依頼を自治体、関係部局等に通知

### ➤ 食品原料に由来する飼料の加熱について都道府県や生産者団体等を通じて農家に徹底

# 家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ発生の疑い事例に係る

## 環境省の対応について

令和4年12月13日

環境省自然環境局

1. 家きん農場における高病原性鳥インフルエンザ発生の疑い事例に対する環境省の対応は、以下のとおり。

- 発生農場周辺半径10km圏内を「野鳥監視重点区域」に指定し、都道府県に野鳥の監視を強化するよう要請。
- 環境省地方環境事務所に、都道府県と連携し現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
- 都道府県と調整の上、野鳥での感染状況の把握等を目的として、区域内の渡り鳥の飛来状況や鳥類の生息状況等の調査を実施。

2. 上記3点に係る対応の現況は、以下のとおり。

- これまで1道16県で「野鳥監視重点区域」を指定し、各道県・環境省地方環境事務所が連携して野鳥の監視の強化を実施中。発見した死亡野鳥等は速やかに回収し、必要に応じてウイルス検査を実施。
- 鹿児島県出水市の「野鳥監視重点区域」ではツル類の大量死を確認。地元県市ほか環境省の現地職員等の関係者と連携して死亡野鳥の回収、処理等（回収羽数合計1,242羽（令和4年12月11日現在））について対応中。さらに、環境省から派遣した緊急調査チームが野鳥の生息状況等の調査を実施して、現地の防疫体制等について助言。
- その他の「野鳥監視重点区域」では、野鳥の大量死等の異常は確認されていない。

（参考）野鳥の監視等の具体的な内容

- 10月～翌年4月にかけて全国の冬鳥の渡来地で野鳥糞便を採集するとともに、通年で死亡野鳥等から検体を採取し、ウイルスの保有状況に関する調査を実施（野鳥サーベイランス）。
- 国内の複数箇所が高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された場合、野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルを最高レベルの「対応レベル3」として、野鳥監視を強化。
- 死亡野鳥、野鳥糞便、環境試料（水）及び家きんにおいて高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された各地点の周辺半径10km圏内を「野鳥監視重点区域」に指定。同区域内では野鳥での感染状況の把握等を目的とした渡り鳥の飛来状況や鳥類の生息状況等の調査を実施。

※ 今シーズンの発生状況（令和4年12月12日15時現在）

- ・ 家きん : 1道16県34例（別表のとおり野鳥監視重点区域を指定）
- ・ 野鳥 : 1道14県102例
- ・ 飼養鳥 : 2県3例

## 【別表】

## 令和4（2022）年シーズン家きんにおける野鳥監視重点区域の指定状況

	場所		検体情報	簡易検査陽性 結果判明日	PCR検査による 疑似患畜確定日	野鳥監視重点区域		
	都道府県	市町村				指定日	防疫措置完了日 (消毒終了)	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
1例目	岡山県	倉敷市	採卵鶏	10/27	10/28	10/28	11/3	12/16予定 (家きん5例目・7例目と重複)
2例目	北海道	厚真町	肉用鶏	10/27	10/28	10/28	11/3	12/30予定 (野鳥101例目と重複)
3例目	香川県	観音寺市	採卵鶏	10/31	11/1	11/1	11/4	未定 (家きん33例目と重複)
4例目	茨城県	かすみがうら市	採卵鶏	11/3	11/4	11/4	11/22	12/20予定
5例目	岡山県	倉敷市	採卵鶏	11/3	11/4	11/4	11/18	12/16予定
6例目	北海道	伊達市	肉用鶏	11/6	11/7	11/7	11/13	12/11解除
7例目	岡山県	倉敷市	採卵鶏	11/10	11/11	11/11	11/18	12/16予定
8例目	和歌山県	白浜町	あひる	11/10	11/11	11/11	11/12	1/1予定 (飼養鳥3例目と重複)
9例目	兵庫県	たつの市	採卵鶏	11/12	11/13	11/13	11/15	12/14予定 (野鳥39例目と重複)
10例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	11/17	11/18	11/18	11/21	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
11例目	新潟県	阿賀町	肉用鶏	11/17	11/18	11/18	11/24	12/22予定
12例目	宮崎県	新富町	採卵鶏	11/19	11/20	11/20	11/22	12/20予定
13例目	青森県	横浜町	肉用鶏	11/19	11/20	11/20	11/24	12/22予定
14例目	香川県	観音寺市	肉用鶏	11/21	11/22	11/22	11/26	未定 (家きん33例目と重複)
15例目	香川県	観音寺市	採卵鶏	11/22	11/23	11/23	11/26	未定 (家きん33例目と重複)
16例目	宮城県	気仙沼市	肉用鶏	11/22	11/23	11/23	11/24	12/27予定 (野鳥75例目と重複)
17例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	11/23	11/24	11/24	11/27	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
18例目	千葉県	香取市	あひる (あいがも)	11/25	11/26	11/26	11/26	12/24予定
19例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	11/26	11/27	11/27	12/8	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
20例目	福島県	伊達市	肉用鶏	11/28	11/29	11/29	11/30	12/28予定
21例目	和歌山県	和歌山市	採卵鶏	11/29	11/30	11/30	12/4	1/1予定
22例目	鳥取県	鳥取市	採卵鶏	11/30	12/1	12/1	12/5	1/2予定
23例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	12/1	12/2	12/2	12/5	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
24例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	12/3	12/4	12/4	12/6	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)

## 【別表】

## 令和4（2022）年シーズン家きんにおける野鳥監視重点区域の指定状況

	場所		検体情報	簡易検査陽性 結果判明日	PCR検査による 疑似患畜確定日	野鳥監視重点区域		
	都道府県	市町村				指定日	防疫措置完了日 (消毒終了)	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
25例目	愛知県	豊橋市	採卵鶏	12/4	12/5	12/5	未定	未定 (家きん31例目と重複)
26例目	佐賀県	武雄市	採卵鶏	12/5	12/6	12/6	12/7	1/4予定
27例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	12/6	12/7	12/7	未定	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
28例目	福島県	飯館村	採卵鶏	12/6	12/7	12/7	12/11	1/8予定
29例目	山形県	鶴岡市	採卵鶏	12/7	12/8	12/8	未定	未定
30例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	12/7	12/8	12/8	未定	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
31例目	愛知県	豊橋市	あひる (あいがも)	12/7	12/8	12/8	12/9	1/6予定
32例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	12/8	12/9	12/9	未定	未定 (家きん34例目、野鳥・出水市の疑い事例と重複)
33例目	香川県	三豊市	採卵鶏	12/10	12/11	12/11	未定	未定
34例目	鹿児島県	出水市	採卵鶏	12/10	12/11	12/11	未定	未定 (野鳥・出水市の疑い事例と重複)

## 令和4年度シーズンにおける鳥インフルエンザ発生に係る災害派遣について

令和4年12月12日現在

事例数	活動期間	場 所	自衛隊対応羽数	活 動 部 隊	自衛隊の 態勢
1	令和4年10月28日(金) ～10月30日(日)	岡山県倉敷市	約12万羽	陸上自衛隊 第13特科隊(日本原) 他4部隊	約300名
2	令和4年11月4日(金) ～11月8日(火)	茨城県かすみがうら市	約48万羽	陸上自衛隊 第1施設団(古河) 他4部隊	約240名
3	令和4年11月4日(金) ～11月7日(月)	岡山県倉敷市	約23万羽	陸上自衛隊 第13特科隊(日本原) 他4部隊	約300名
4	令和4年11月20日(日)	宮崎県新富町	約6万羽	陸上自衛隊 第43普通科連隊(都城) 航空自衛隊 第5航空団(新田原)	約200名
5	令和4年11月27日(日) ～11月30日(水)	鹿児島県出水市	約19万羽	陸上自衛隊 第12普通科連隊(国分)	約140名
6	令和4年12月1日(木) ～12月2日(金)	鳥取県鳥取市	約4万羽	陸上自衛隊 第8普通科連隊(米子)	約170名
7	令和4年12月2日(金)	鹿児島県出水市	約6万羽	陸上自衛隊 第12普通科連隊(国分)	約180名
8	令和4年12月5日(月) ～12月7日(水)	愛知県豊橋市	約12万羽	陸上自衛隊 第10特科連隊(豊川) 陸上自衛隊 第10高射特科大隊(豊川)	約250名
9	令和4年12月8日(木)	鹿児島県出水市	約3.1万羽	陸上自衛隊 第12普通科連隊(国分)	約130名
10	令和4年12月9日(金) ～12月10日(土)	鹿児島県出水市	約11万羽	陸上自衛隊 第12普通科連隊(国分)	約190名
11	令和4年12月11日(日)	鹿児島県出水市	約2.2万羽	陸上自衛隊 第12普通科連隊(国分)	約130名

※数値等は全て速報値のため、今後変更される可能性あり。  
令和4年10月1日～12月12日までの活動実績を取りまとめたもの。